

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2376300238
法人名	有限会社 ネクストサプライ
事業所名	グループホーム設楽の家
訪問調査日	平成 19 年 7 月 10 日
評価確定日	平成 19 年 8 月 7 日
評価機関名	福祉総合研究所株式会社

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年7月25日

【評価実施概要】

事業所番号	2376300238
法人名	有限会社ネクストサプライ
事業所名	グループホーム 設楽の家
所在地	愛知県北設楽郡設楽町清崎釜淵13-2 (電話)0536-63-2030

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市千種区内山1丁目11番16号		
訪問調査日	平成19年7月10日	評価確定日	平成19年8月7日

【情報提供票より】(19年7月5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年9月15日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	20 人	常勤	14 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 5、6

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	鉄骨1階建て、1階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,000 円	その他の経費(月額)	13,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	200,000円	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,300 円			

(4) 利用者の概要(7月5日現在)

利用者人数	21 名	男性	8 名	女性	13 名
要介護1	2 名	要介護2	7 名		
要介護3	6 名	要介護4	5 名		
要介護5	名	要支援2	1 名		
年齢	平均 82、5 歳	最低	57 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	伊藤内科医院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

豊かな山並みの眺望と四季の移り変わりを五感に感じる自然の環境に恵まれたホームである。中学校跡地の為、広いグラウンドがありそこで、地域の人達がグラウンドゴルフを楽しみ、利用者もそれを観戦しているのどかな風景が見られる。玄関は鍵をかけず、天気の良い日は利用者は外のベンチに腰掛ける事が多い開放的なホームである。畑仕事に詳しい利用者は職員と一緒にホームの畑で野菜を育てており、それが食卓に出される喜びを皆で共有している。その事は身体機能の低下防止にもなっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の要改善は運営理念の啓発、市町村との関り、地域との交流の促進などである。管理者は月1回以上設楽町の担当者にホームの現状を伝え相談や意見を聞いている。又設楽町や包括センター主催の研修などの参加もしている。地域との交流は、2ヶ月に1度の運営推進会議やホームのチラシ配布などにより、地域住民との交流ができつつある。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員は自己評価の意義を理解し、日々限られた時間の中で個々に取り組み、後にミーティングなどで話し合いそれを作成した。それによりケアの振り返りや評価についての、職員の合意が得られた事は有意義であった。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月毎に開き、出席者は、地域住民代表・家族代表・地域包括センター・ホームの管理者である。前回の運営推進会議は「当ホームを知らない」「見学したいが行きにくい」の声があるとの事で、商工会の協力を得てチラシを配布する事や当ホームが中学校跡地の為グラウンド活用方法の検討であった。意見を踏まえて定期的に見学会を開き、地域の人達に理解してもらう様取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	管理者と職員は家族からの要望や意見はミーティングで話し合い改善している。管理者と家族との信頼関係が出来ていて、訪問時などに意見が言いやすい環境作りをしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣にパンフレットを配布したり、裏のグラウンドで、地域住民のグラウンドゴルフなどの見学や、小学生の学芸会の見学、中学生の職場体験の受け入れなど、地域との交流ができつつある。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	母体法人の理念、自立・共生・友愛をもとに、住み慣れた地域でゆったり楽しく暮らせるよう支援しているが、地域密着サービスに向けた事業所独自の理念は現在検討中である。	○	地域の中で、その人らしく暮らしてもらえる事を基盤にした理念を分かり易く、表現される事を期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	母体法人の理念を基に職員は利用者側のペースでゆったり楽しく暮らしてもらうための支援を、ミーティングなどで話し合い共有し取り組むようにしている。	○	ホームの独自の理念を考案して全職員が共有し日々取り組まれる事を期待する。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームは元中学校の跡地にあるためグラウンドがあり、そこで地域の人達がゲートボールを行う時にホームの利用者が見学したり、老人会や地域の祭りに参加している。又中学生の職場体験の受け入れもしている。ホームの食材も近隣の商店で購入し、そこでホームのチラシを掲示してもらう事で、ホームの周知につながり、それにより利用者が1名増えた。	○	今後も地域の行事参加はもとより、広いグラウンドを活かし、事業所独自の行事を考案され、それを地域住民との交流の場となる事を望んでいる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は自己評価の意義を理解し、日々限られた時間の中で一生懸命取り組んだ。それによる職員の気付きもある。前回の要改善(市町村とのかかわりについて)も管理者が何度も設楽町担当者にホームの現状や今後の発展に関する相談、意見を聞きに足を運び改善に向かっている。		
		○運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議は2ヶ月に1回開き、包括支援センター職員・		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域住民代表・家族代表などの出席で行っている。そこでもらう意見や要望は職員会議を開き改善策を考えサービスの質の向上に活かしている。前回の運営推進会議での話題は、退居された人達の身体状況についての質問やホームを知ってもらう為の見学会の企画に関する事などである。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は月1回以上役場の担当者に会い、ホームの状況を報告したり、相談をしている。それをホームで話し合いサービスの質の向上に役立っている。設楽町で開催する勉強会などにも参加している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族は毎週1回、少ない人で半月に1回の訪問がある。その時に利用者の暮らしぶりや健康状態を伝えている。又月1回家族に利用者の様子や写真も添えて手紙を出している。金銭管理は利用者個々の出納帳があり事務所に保管して家族の訪問時にサインをもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者と家族との関係も良く、家族からの不満や要望、意見が言い易い雰囲気である。	○	今後も家族との良好な関係を築く努力を継続される事を期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	平屋で3ユニットがあり、職員も利用者も行き来している。そのため顔馴染みとなり良い関係ができて、利用者へのダメージは少ない。新人が入る時は利用者で紹介して、ベテラン職員の指導のもとおたがい徐々に馴染めるように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、管理者や職員が段階に応じて研修が出来る様に研修費の補助制度を設けている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	役場や地域包括センター等が主催する研修会に参加しており他のホームの職員との交流をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前には本人・家族がホームを訪問し、いろいろな場面の見学ができるようにグループホームの雰囲気に馴染めるような体制をとっている。また管理者は事前に度々訪問して、なじみの関係を作りあげている。	○	今後も本人の安心と、納得を得るための支援が期待される。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	若い職員は利用者に教わったり、励ましてもらったりして共に支えあう関係づくりをしている。その上で、利用者の感謝のことばや労をねぎらう言葉などから学ぶことがたくさんあることを日々実感している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者の思いを汲みとることができるよう日々のケアの中で、声かけなどに配慮している。日々のかかわりの中で言葉や生活の様子や表情などからも把握するように努めている。	○	日々のかかわりの中で利用者がふともらす言葉を計画書の記録に書きとめておくことを希望する。1つのことを角度を変えて考えて見て、色々な意見を出し利用者の把握に努めていくことを期待する。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、利用者、家族の意見を反映させながらカンファレンスを行い、介護計画の作成を行っている。本人のできることに注目し、当然のことながら実施可能で実現が見込まれることを短期目標としている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	設定した期間での見直しはもちろん、それ以外に変化があった場合は随時、検討・見直しを行っている。利用者ごとの目標の達成と継続をそれぞれわかりやすく書き記している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて医療機関の受診や送迎の支援を行っている。又、家族の要望に応じて外泊などの対応もしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が納得のいくかかりつけ医となっている。協力病院への通院はホームで対応している。個別の病院への通院介助は家族の協力を得ているが、どうしても無理なときは職員がつきそっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族とは終末期支援のことも話し合っているため、家族にとっては安心である。かかりつけ医の協力を得ながら方針を職員で話し合っている。	○	終末期に対する指針を定め、家族・医療機関・職員で話し合い事例発生時のときのために備えてもらいたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者に対して、誇りやプライバシーを損ねるような話し方や接し方はしていない。又、個人情報保護法についてもよく理解して保護に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な流れはあるが、利用者のペースや体調に合わせた支援・対応をしている。外に出るのが好きな人や集まって歌を歌うのが好きな人たちそれぞれで、自由に穏やかに過ごしている雰囲気ができている。	○	今後も利用者のペースに合った支援を望んでいる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者と相談しながら決めている。調理、盛り付け、後片付けも一緒に行っている。職員と利用者が同じテーブルに座り、楽しくおしゃべりしながら食事をする雰囲気作りがされている。又、畑で採れた野菜も食事に並ぶので、利用者の楽しみとなっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員のローテーションの都合上、昼間の入浴となっているが、最初は夜が希望だった人も今では昼間の入浴が気に入っているとのことである。くつろいだ入浴ができるよう心がけている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	農業をやっていた方には畑仕事を手伝ってもらい、お花の先生だった方にはホーム内に花を活けてもらったり、お茶をやっていた方にはお茶をたててもらったりと毎日の暮らしの中で一人ひとりにあった楽しみや役割を見つけて支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	自然の環境に恵まれている所なので、玄関先にはベンチが設けられており日光浴を楽しむことができる。月1回の外食先での五平餅定食を皆が楽しみにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関は鍵をかけていない。利用者が外出しそうな様子を察知した場合はさりげなく声をかけたり、散歩の付き添いをするなどして、より安全性に努めている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の協力を得て、避難訓練を行っている。その際、火災報知機の使い方も確認している。電気保安協会からは、2ヶ月に1度点検に来ている。	○	避難訓練を通して、地域との協力体制も確実なものにされたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量や排泄のチェックは記録されていたが、水分摂取のチェックはされていなかった。一人ひとりの状態にあった食事の内容となっている。	○	一人ひとりにあった栄養摂取や水分補給となるよう、飲水量のチェックをし積極的に必要水分量の補給を行うよう期待する。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には利用者と一緒に作った季節感のある壁面飾りや手作りのカレンダーも取り付けてあり、トイレ・浴室もわかりやすい表示となっている。又、たたみスペースがあり掘りごたつとなっているが、夏はフラットになるとのこと。季節ごとの花を花瓶に活けてあり居心地よく過ごせる環境作りがなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた物品や孫の写真など持ち込まれそれぞれに居心地よく過ごせる場所となっている。	○	居室に洗面台があり清潔に努めている。ただ冬場だけでもお湯がでるようになると利用者も使いやすいと思われる。